

2023年度 授業シラバスの詳細内容

○基本情報			
科目名	解剖学 (Basic Anatomy)		
ナンバリングコード	S10101	大分類 / 難易度 科目分野	保健医療学科 / 基礎レベル コース共通
単位数	2	配当学年 / 開講期	1年 / 前期
必修・選択区分	必修 ※入学年度及び所属学科コースで異なる場合がありますので、学生便覧で必ず確認してください。		
授業コード	S000101	クラス名	-
担当教員名	岩崎 香子		
履修上の注意、履修条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・解剖学の学修は積み重ねが重要です。欠席しないようにしてください(欠席すると講義が理解できなくなるおそれがあります)。初回を除いて講義開始時に出席確認を兼ねた確認テスト(前回の学習内容の理解度チェック)を行います。</li> <li>・予習(難しく感じる点を書き出しておく)、復習(学習した内容を振り返り理解を深める)、問題解決(わからないところをそのままにしない)をいつも行ってください。</li> <li>・欠席した場合の配布資料は申し出がある場合に配布します。</li> </ul>		
教科書	入門人体解剖学改訂第5版(藤田恒夫、南江堂、2012年)		
参考文献及び指定図書	ネットー解剖学アトラス 原書第7版[電子書籍付]( F.H.Netter、南江堂、2022年) プロメテウス解剖学 コア アトラス 第3版(坂井建雄 監訳、医学書院、2018年)		
関連科目	生理学		

○基本情報			
授業の目的	正常な人体の成り立ちや各器官の形態、構造についての学修は、将来医療従事者をを目指す学生には必須の事項です。生体の構造や各器官・組織の成り立ちが理解できると、疾患やその治療に対する学修がスムーズになります。高校までに学修した内容の復習も含め、生理学(各器官の詳細な機能を学習する学問領域)との関連性を意識しながら、生体の構造への理解を深めます。		
授業の概要	解剖学は人体の成り立ちや各器官の形態、構造について体系的に学ぶ学問であり、医学系学問の基礎となる領域である。各器官の機能や病態を学ぶためにも、人体の正常な構造を理解する必要がある。本科目では各器官の形態や構造を肉眼的観察レベルから正確に理解することを主体とする。また、医療現場において多職種とコミュニケーションをとれるようになるには、解剖学用語についても理解を深める必要があることから、学修した内容や解剖学用語に関する小テストを講義の中で行い、反復学修による知識の修得に力を入れる。		
授業の運営方法	(1) 授業の形式	「講義形式」	
	(2) 複数担当の場合の方式	「該当しない」	
	(3) アクティブ・ラーニング	「グループワーク」	
地域志向科目	該当しない		
実務経験のある教員による授業科目			

○成績評価の指標		○成績評価基準(合計100点)		
到達目標の観点	到達目標	テスト (期末試験・中間確)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (発表・その他)
【ディプロマ・ポリシー1】	グループで取り組む課題において、積極的に意見交換をして協力しながら問題解決に臨むことができる。		10点	
【ディプロマ・ポリシー2】	1.人体の構造および機能の基本を説明できる。 2.人体の各器官の位置、構造の特徴を正しく説明できる。 3.各器官の説明において、適切な解剖用語を用いることができる。	70点	20点	
【ディプロマ・ポリシー3】				
【ディプロマ・ポリシー4】				

○成績評価の補足(具体的な評価方法および期末試験・レポート等の学習成果・課題のフィードバック方法)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義開始時の確認テストの成果(得点)は提出物として評価します。</li> <li>・グループワークで使用する媒体は全員提出してもらい、提出物として評価します。</li> <li>・確認テストの解答については、授業内で解説を行いフィードバックします。</li> <li>・グループワークの成果については、授業内で総評を行い、課題内容についてポイントを解説します。</li> </ul>	

○その他	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・この科目は必修科目です。大学に入って初めて学ぶ専門的な内容も含まれているので難しいと感じるかもしれませんが、時間をかけて繰り返し取り組みれば理解が可能です。</li> <li>・解剖学で学修する内容は膨大で、丸暗記で対応しようとすると、苦手意識が強まります。生理学、生化学などの関連事項と結びつけることで修得しやすくなります。</li> <li>・配布する資料は講義中に記入したりメモを取ったりすることで完成し、復習や試験勉強の時の資料となります。講義の時間ではメモを取る時間を設けますので、メモを取る習慣をつけましょう。授業後には、講義中のメモを基に教科書などを参照しながら、学習内容をまとめていく努力をしてください。</li> <li>・わからないことは放置せずに、友達と一緒に取り組んで解決したり、担当教員の研究室に質問に来てください。時間がある限り対応します。</li> </ul>	

2023年度 授業シラバスの詳細内容

○授業計画	科目名	解剖学 (Basic Anatomy)	授業コード	S000101
	担当教員	岩崎 香子		
<b>学修内容</b>				
<b>1. 人体発生の概要および細胞の特徴と各組織の構造</b>				
はじめに本講義の内容、成績評価方法、講義スケジュール等について説明します。参考図書についても説明します。初回は人体を構成する細胞の特徴や組織、器官とはどのようなものかを解説します。合わせて人体の発生の概要を学びます。				
予習	教科書P3-18、333-350を読んで理解が困難な箇所を書き出す。		約2時間	
復習	教科書、配布プリント、授業中のメモ、参考図書などを利用して、学修した内容を整理する。		約2時間	
<b>2. 筋・骨格系①: 方向と運動に関する用語、骨の構造、関節の種類、筋の構造、頭頸部</b>				
身体の構成について、特に支持組織である骨、筋の特徴を学習します。解剖学に必要な方向や運動に関する用語については、実際に身体を動かして学びます。				
予習	教科書P19-48、78-84を読んで理解が困難な箇所を書き出す。		約2時間	
復習	教科書、配布プリント、授業中のメモ、参考図書などを利用して、学修した内容を整理する。		約2時間	
<b>3. 筋・骨格系②: 体幹(胸部、腹部)、筋・骨格系③: 上肢・下肢</b>				
筋・骨格のうち、体幹、上肢・下肢について構造上の特徴を学びます。屈曲・伸展については、実際に身体を動かして理解を深めます。				
予習	教科書P49-72、83-102を読んで理解が困難な箇所を書き出す。		約2時間	
復習	教科書、配布プリント、授業中のメモ、参考図書などを利用して、学修した内容を整理する。		約2時間	
<b>4. 神経系①: 中枢神経(大脳・中脳・小脳・間脳・脳室)、脊髄</b>				
神経系のうち、中枢神経とは何を指しているかを理解します。脳と脊髄の構造の特徴と末梢との連絡を学びます。				
予習	教科書P253-272、278-284を読んで理解が困難な箇所を書き出す。		約2時間	
復習	教科書、配布プリント、授業中のメモ、参考図書などを利用して、学修した内容を整理する。		約2時間	
<b>5. 神経系②: 末梢神経(脳神経、脊髄神経、自律神経)、錐体路、錐体外路</b>				
機能的分類から見た末梢神経の特徴を学びます。感覚の伝導、運動の制御経路について学びます。				
予習	教科書P285-305、309-312を読んで理解が困難な箇所を書き出す。		約2時間	
復習	教科書、配布プリント、授業中のメモ、参考図書などを利用して、学修した内容を整理する。		約2時間	
<b>6. 脈管系①: 心臓の構造、冠動脈、脳血管</b>				
生体に備わっている2つの循環器系を復習します。血管構造の特徴に加えて、循環器系(脈管系)の中心である心臓の構造の特徴を理解します。合わせて冠動脈、脳血管の走行について学びます。				
予習	教科書P107-118、273-278を読んで理解が困難な箇所を書き出す。		約2時間	
復習	教科書、配布プリント、授業中のメモ、参考図書などを利用して、学修した内容を整理する。		約2時間	
<b>7. 脈管系②: 動静脈の走行、リンパ管</b>				
末梢の循環のうち、特に四肢の循環(動脈・静脈)について学びます。リンパ管の特徴を動脈・静脈と比較します。毛細血管・リンパ管での物質のやり取りについても学びます。				
予習	教科書P119-138を読んで理解が困難な箇所を書き出す。		約2時間	
復習	教科書、配布プリント、授業中のメモ、参考図書などを利用して、学修した内容を整理する。		約2時間	
<b>8. 呼吸器系(鼻腔、咽頭・喉頭、気管・気管支、肺)</b>				
外界からの空気の通路(器官・気管支)とガス交換の場である肺胞の構造を学びます。呼吸運動を支える筋や骨格についても説明をします。				
予習	教科書P195-211を読んで理解が困難な箇所を書き出す。		約2時間	
復習	教科書、配布プリント、授業中のメモ、参考図書などを利用して、学修した内容を整理する。		約2時間	

○授業計画	科目名	解剖学 (Basic Anatomy)	授業コード	S000101
	担当教員	岩崎 香子		
<b>学修内容</b>				
<b>9. 腎泌尿器系: 腎臓の構造(マクロ、ミクロ)、膀胱、尿道</b>				
尿生成の場である腎臓の構造をマクロ・ミクロの視点から理解します。尿排泄経路の構造的特徴についても解説します。				
予習	教科書P213-220を読んで理解が困難な箇所を書き出す。		約2時間	
復習	教科書、配布プリント、授業中のメモ、参考図書などを利用して、学修した内容を整理する。		約2時間	
<b>10. 第9回までのまとめと確認</b>				
第1回から8回までに学修した内容についてグループワークを行います。メンバーで意見を出し合っ、出題に対する答えをまとめ、発表します。このグループワークで第1回から8回の重要なポイントを確認して身につけます。				
予習	第9回までの内容を振り返り、理解が不十分なところを書き出す。		約2時間	
復習	教科書、資料、メモなどを用いて、再確認した内容について、整理する。		約2時間	
<b>11. 消化器系①: 消化管基本構造、口腔、食道、胃</b>				
食べ物を口から摂取して胃に移動するまでの通路(口腔・食道・胃)の特徴を学びます。				
予習	教科書P151-177を読んで理解が困難な箇所を書き出す。		約2時間	
復習	教科書、配布プリント、授業中のメモ、参考図書などを利用して、学修した内容を整理する。		約2時間	
<b>12. 消化器系②: 小腸、大腸、肝、膵、胆</b>				
消化吸収の場である小腸と大腸、消化を助ける付属臓器(肝・膵・胆)の構造の特徴を学びます。				
予習	教科書P177-193を読んで理解が困難な箇所を書き出す。		約2時間	
復習	教科書、配布プリント、授業中のメモ、参考図書などを利用して、学修した内容を整理する。		約2時間	
<b>13. 内分泌器系(視床下部、下垂体、甲状腺、上皮小体、副腎)</b>				
生体の恒常性維持に重要な働きをするホルモンの産生器官の場所と特徴をそれぞれ学びます。				
予習	教科書P241-252を読んで理解が困難な箇所を書き出す。		約2時間	
復習	教科書、配布プリント、授業中のメモ、参考図書などを利用して、学修した内容を整理する。		約2時間	
<b>14. 生殖器系(男性生殖器、女性生殖器)</b>				
男女で大きく構造が異なるので、それぞれの特徴と役割を比較しながら学びます。				
予習	教科書P221-239、331-332を読んで理解が困難な箇所を書き出す。		約2時間	
復習	教科書、配布プリント、授業中のメモ、参考図書などを利用して、学修した内容を整理する。		約2時間	
<b>15. 感覚器系と免疫系(皮膚、脾臓、胸腺、リンパ節)</b>				
外界から生体を守る働きをしている器官(皮膚)と生体防御の調節に関わる脾臓・胸腺・リンパ節のそれぞれの構造について理解を深めます。				
予習	教科書P139-145、313-331を読んで理解が困難な箇所を書き出す。		約2時間	
復習	教科書、配布プリント、授業中のメモ、参考図書などを利用して、学修した内容を整理する。		約2時間	
<b>16. 期末試験</b>				
期末試験を実施します。試験範囲は全15回です。				
予習				
復習				